

株式会社日本触媒

2012年3月期第2四半期決算説明会



2011年11月8日



日本触媒



日本触媒

長期経営計画 「テクノアメニティ2015」の進捗状況と 2011年度業績見通しについて



代表取締役社長
池田全徳

目次

1. 業績動向
2. 個別事業の状況
3. 中長期経営計画
4. 中長計個別事業
5. 利益還元策

用語解説

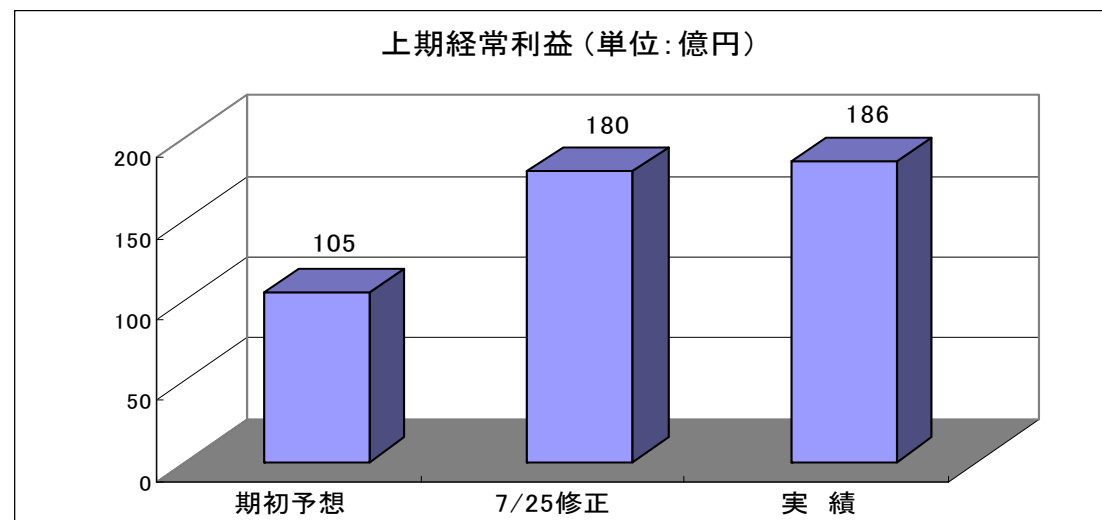
SAP:	高吸水性樹脂
AA:	アクリル酸
AES:	アクリル酸エステル類
EO:	酸化エチレン
EG:	エチレングリコール

1. 業績動向

上期業績について

上期：増収増益（期初予想比、前年同期比）
過去最高益（半期ベース、営業・経常利益）

- **震災影響** 期初、売上・利益の落ち込み見込むも、**影響は軽微**
 - 1) 想定以上に**堅調な内外需要**
 - 2) 夏場の電力供給不安に備えた**ユーザーの高稼働**→強い需要
- **スプレッド** 期初予想：原料価格上昇の転嫁不足、AES市況下落を見込む
結果 **原料価格：想定下回る、AES市況：高止まり、スプレッド拡大**
- **上方修正（7/25）後も堅調に推移**



1. 業績動向

下期および通期業績の見通し



下期： 上期比で減収減益
通期： 最高益見通し

	2010年度			2011年度(推定)		
	上期	下期	通期	上期実績	下期推定	通期推定
売上高(億円)	1,381	1,502	2,883	1,639	1,561	3,200
経常利益(億円)	134	176	309	186	144	330
ROA (総資産経常利益率)			9.7%			9.7%
ナフサ価格(円/KI)	46,200	48,800	47,500	57,000	50,000	53,500
為替レート(円/USD)	89	82	86	80	75	77
為替レート(円/EUR)	114	112	113	114	100	107

1. 業績動向

下期事業環境の前提



- **世界景気 減速** 販売数量減、設備稼働率低下

製品 AES 市況下落 ⇒ スプレッド縮小

	2011年度上期実績	2011年度下期前提
AES アジア市況 (USD/t)	2,758	2,200

原料 ナフサ価格下落

	2011年度上期実績	2011年度下期前提
国産ナフサ価格 (円/kl)	57,000	50,000

- **為替レート 円高** 歴史的円高（特に“EUR”影響大）
下期想定レート： 75円/USD、100円/EUR
為替感応度： 対USD → ほぼニュートラル
対EUR → **1円/EUR円高**で営業利益**0.8億円/年減少**

- **需要分野** 高い生活必需品・日用品比率
SAP、洗剤原料など短期的在庫調整以外は安定的に成長

2. 個別事業の状況

主要製品の短期見通し



基礎化学品

AA・AES

上期、海外AES市況は前提(2,550 \$ /t)を上回る価格で、設備はフル稼働で推移。下期は安定した顧客基盤を背景に販売量は上期比微減にとどめる。海外AESの市況前提は、2,200 \$ /t でスプレッド縮小。

EO・EG

上期は、震災の影響による引き合いに対応しフル操業。下期は、EOは界面活性剤需要が堅調。EGはポリエステル需要の底堅さ、新規増設がない事、最近の海外他社プラントのトラブル等から需給タイトが想定され、高水準の稼働を維持する。

機能性化学品

SAP

上期は需給はタイトで姫路の新設プラントも含めてフル稼働。下期は世界的な景気減速を見込むが、安定した顧客基盤を基に販売量は上期比微減にとどめる。売上高は、円高と原料価格下落見合いで減少。

電子情報材料

年内はフラットパネルディスプレイ(FPD)関連市場の不振を予想。アクリビュアは、性能を武器に下期拡販を図る。フィルムは年明け上市。

2. 個別事業の状況

主要製品の短期見通し



環境・触媒

自動車触媒

上期は震災の影響で前年同期比数量減だが、貴金属価格高騰で売上高増加。下期は自動車増産を受けて大幅増収を見込む。

ジルコニアシート

上期は出荷数量が前年度下期と比べて減少。下期は回復を見込む。

(単位:億円)		2011年度		
		上期	下期(推定)	通期
基礎	売上高	709	641	1,350
	営業利益	90	55	145
機能性	売上高	827	773	1,600
	営業利益	91	64	155
環境・触媒	売上高	103	147	250
	営業利益	3	7	10

3. 中長期経営計画

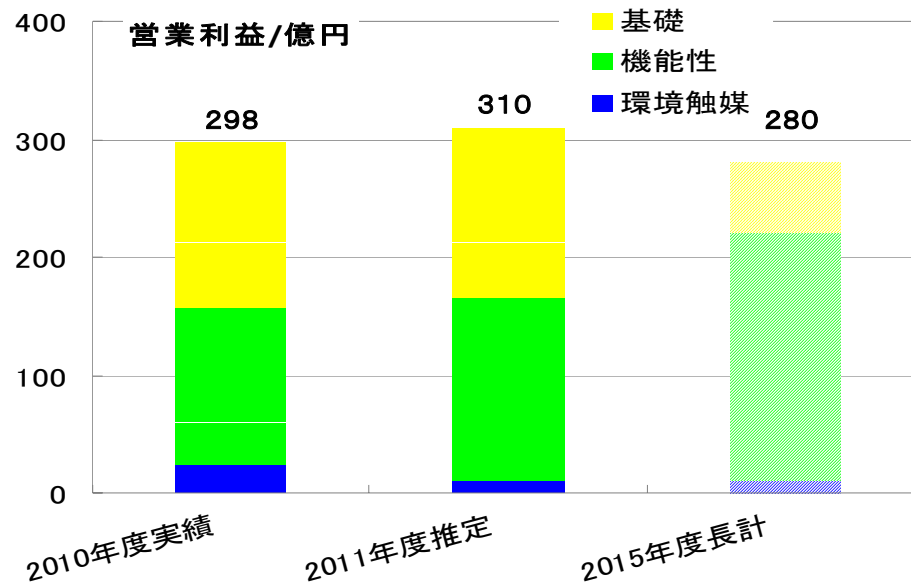
中長期経営計画のポイント



実力を着実に伸ばしていく

- AA/SAP世界展開を着実に実行する
- 既存製品の収益改善を図る(収益改善委員会)
- 新規事業(電材、新工ネ、電池材料)を軌道に乗せる

+健康・医療分野
に足がかりを持つ



アジアを中心とする
新興国市場の成長
を取り込む

基本コンセプトは引継ぎながら、計画値を2012年度中に見直す。
2013年度から新しい後半3カ年の計画スタート

AA/SAP世界展開

SAP



需給動向

需要 新興国の経済成長に沿って力強い伸びを見込む

世界需要 約170万トン(2010年推定)

年率7~8%成長

供給 既存大手以外の新興メーカーも参入・増強を計画

当社の設備増強

2010年10月 姫路 6万トン/y 稼働

2012年 6月 米国 6万トン/y ビルド & スクラップ

2013年 8月 インドネシア 9万トン/y 稼働予定

} 計画どおりの進捗

AA/SAP世界展開 SAP

トップクラスのシェア維持、収益力確保

<当社SAPの強さの源泉>

- ①製品・プロセスに関する**R&Dの力**
- ②**原料AA**からの一貫生産
- ③日米欧中の生産拠点による**安定供給体制**
- ④技術を有効に守る**知財戦略**
- ⑤成長力に富む優良な**顧客**

<リスクと対策>

- ①新興国、新規参入メーカー品の台頭
 - ・製品の性能・品質による差別化
 - ・AAを含むプロセス革新、生産の効率化、物流合理化などによる総合的コストダウン
 - ・知財戦略の的確な実行
- ②円高による価格競争力低下
 - ・円高リスクを回避できる拠点での生産拡大



4. 中長計個別事業

AA/SAP世界展開

AA



需給動向

世界需要 約400万トン(2010年推定)

年率5~6%成長

中期的には需給緩和が想定される

(単位:万トン)

	2010年	2011年	2012年	2013年
需要(A)	396	415	434	455
年間供給可能量(B)	514	527	585	624
名目稼働率(A/B)	77%	79%	74%	73%

需要の伸びを捉えた成長

当社の設備増強

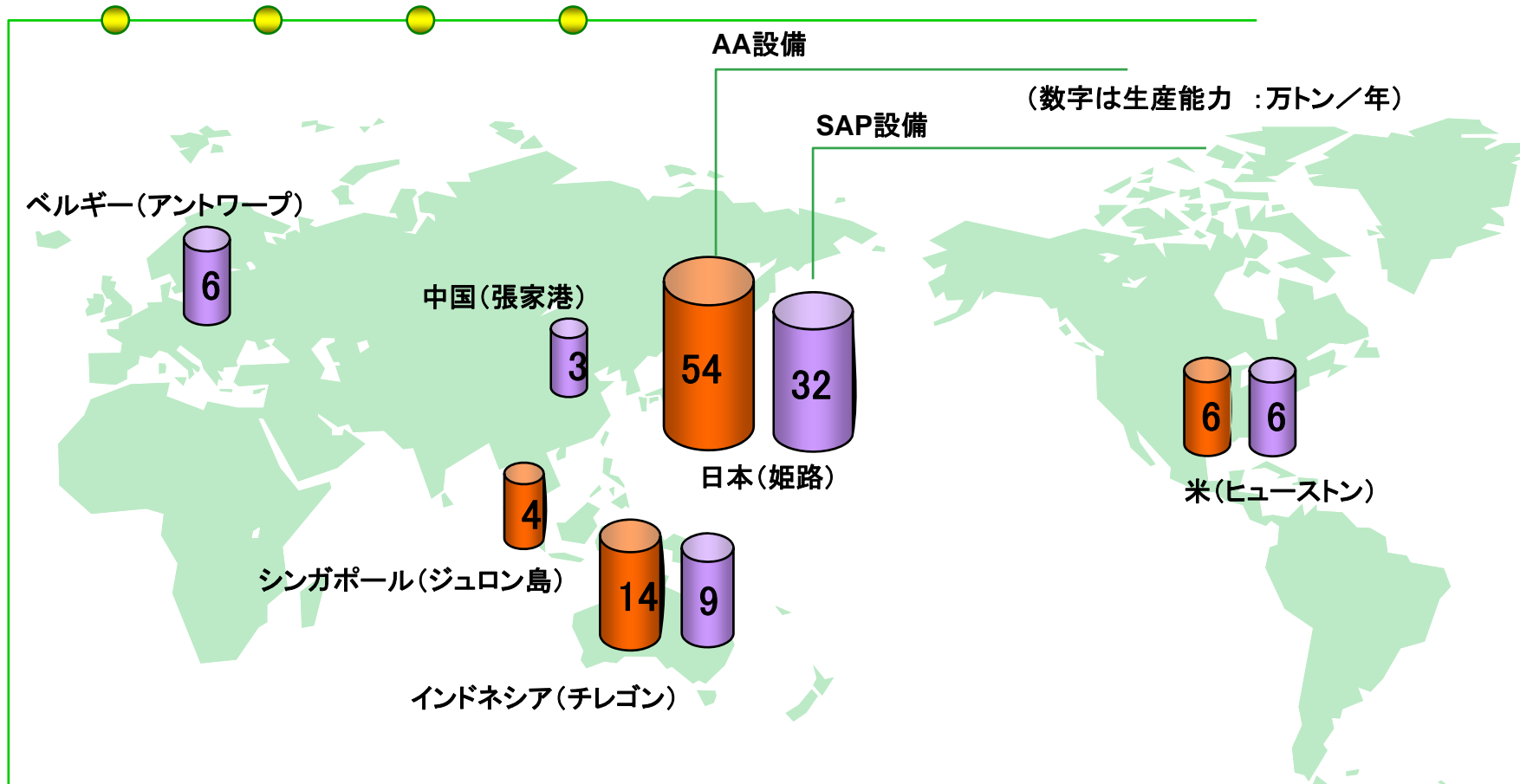
2010年 4月 姫路	8万トン/y 稼働	} 計画どおりの進捗
2013年 8月 姫路	8万トン/y 稼働予定	
2013年 8月 インドネシア	8万トン/y 稼働予定	

当社の増設AAは、大半がSAP向けの自消・外販用

4. 中長計個別事業

AA/SAP世界展開

2013年末



生産能力/万トン/y		
	現在	2013年末
AA	62	78
SAP	47	56

既存製品の収益改善 EO



市況に左右されない収益基盤の確立

- 非EG化：7割台で推移（国内平均〔当社含む〕5割台）
- EOセンター化
誘導品の拡充

① (メタ) アクリル酸特殊エステルの増設

BHEA, HEMA, HPA, HPMA

主用途: 自動車用塗料、電子材料 原料: EO/PO、AA/MAA

2013年10月 川崎製造所（2007年取得新規土地） 2万トン/y 設備稼働予定

* 需要拡大に対応

* EO輸送量削減

② コンクリート混和剤用ポリマーの増設

2012年4月 川崎製造所（既存敷地） 1. 6万トン/y 設備稼働予定

③ コンクリート用乾燥収縮低減剤の上市

大手ゼネコン3社と共同開発、2011年10月より本格販売

稼働率の向上を最優先課題として柔軟な製品構成を目指す

新規事業を軌道に乗せる



電子情報材料：収益面での柱に

- 光学材料用アクリル樹脂 “アクリビュア®”
樹脂：高機能化、 フィルム：2012年 年初から本格出荷

新エネルギー材料：次世代のコア事業に

- 燃料電池用材料（ジルコニアシート・セル）
中期的には大幅拡大を目指す

電池材料：次世代のコア事業に

- リチウムイオン電池用材料 <次ページで解説>
電解質向け新規材料(LiFSI)を2012年度上市予定
2015年度 売上高20億円を目指す
- リチウム電池用固体電解質ポリマー
早期上市を目指す

4. 中長計個別事業

解説：リチウムイオン電池用材料



新電解質用材料：リチウムビスフルオロスルホニルイミド (LiFSI)

- 特長

リチウムイオン電池の**長寿命化**(既存品比: 120%~200%)
および**安全性向上**(膨張しない)に効果大

原理: 電極表面に保護膜を形成し、
電解液の劣化、ガスの発生を抑制



- 当社の強み

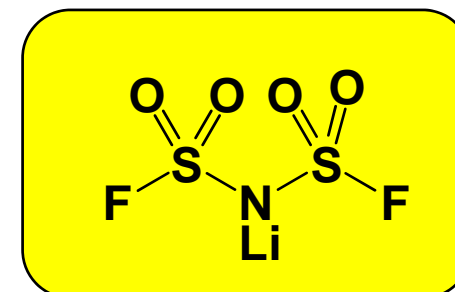
独自の触媒による合成技術確立



高純度品を安価に量産可能(世界初)

- 生産設備

2013年に年産数百トン級の生産能力確保



5. 利益還元策

配当の基本姿勢と今期予想



事業拡大や企業体質強化等を総合的に勘案しつつ、
連結業績動向を見通し、中長期的水準向上を目指す

コア事業の拡大投資 → 内部留保を厚く

2010年度配当
当期純利益 211億円
22円/株

円/株	中間	期末	合計
普通配当	9	9	18
記念配当 ^{*)}	1	1+2	4
合計	10	12	22

*) 姫路製造所開所50周年記念(2円)および当社創立70周年記念(2円)

%	2005-11年度 7年平均	2007-11年度 5年平均
平均配当性向	25.6	28.5
平均総還元率	40.2	37.7

2011年度配当（予想）
当期純利益215億円
22円/株

期初予想：普通配当 20円/株
に対し**2円/株の増配**

円/株	中間	期末	合計
普通配当	11	11	22
記念配当	-	-	-
合計	11	11	22

おことわり

本資料は、投資判断の参考となる情報提供を目的としているものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。また、記載されている内容は、資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した内容を含んでおり、記載された内容を確認したり、保証するものではありません。実際の業績は、様々な要因により、異なる結果となる場合があります。

お問合せ先：

株式会社日本触媒 IR・広報室

東京都千代田区内幸町1-2-2 日比谷ダイビル

TEL： 03-3506-7477

FAX： 03-3506-7598

URL： <http://www.shokubai.co.jp>